

Eleanor Robinson

## 日英関係史

私の研究内容は主として日英関係史に関するものである。修士課程ではこのテーマを大きな範囲で取り上げ、約 400 年前の日英関係の始まりから現在までの経緯を辿り、『日英関係における相互認識の軌跡』という題で修士論文を 2006 年に提出した。その中では特に、幕末・明治時代に主点を置き、とりわけ英国と薩摩藩の深い絆を考慮し、英国留学を経て後年に英国駐在日本公使館書記官を勤めた薩摩藩士だった中井弘(なかいひろむ)という人物について検討した。現在、博士課程ではこの中井弘研究に集中している。

中井弘を取り上げる理由は、中井が最も重要な役割を果たした『縄手事件』があったからである。『縄手事件』とは 1868 年 3 月 23 日、英国公使ハリー・パークスと、有名な外交官と日本の主唱者アーネスト・サトウを含む一行が京都朝廷を訪問した際、中井はイギリス人たちを殺害しようとした攘夷論を主張する浪人二人を素早く止めて、パークスたちを救ったという事件である。そのため、中井は当時の英国女王ヴィクトリアから宝剣と感謝状を送られた。もし、その時公使たちのような大切な国家の代表が殺害されれば、日英関係は間違いなく悪化してしまったと思うので、日英関係史研究の中で中井弘の重要な役割は忘れてはいけないと思う。

『縄手事件』後、当時、日本人はあまり日本から出る機会のない時代に再びイギリスへ渡って英国駐在日本公使館書記官となり、更に米国にも渡った。その記録に『漫遊記程』を執筆した。この『漫遊記程』と前述の『航海新説』とは中井の英国観を読みとれて、日英交流史として非常に面白く、大切な資料である。

中井は日本に帰国後、明治新政府で様々な役割を果たした。工部省書記官から、伊藤博文の推薦で滋賀県知事、そして亡くなる一年前に京都府知事まで勤めていた。左院四等議員に任務され、国政改新の建白書を提出し、更にその後貴族院議員に選ばれた。これほど国のために努力して働く者は日本国民に忘れ去られてはいけないが、日英関係史の中でこれほど活躍した者は日英関係史研究者の間でも忘れてはいけないと思う。

## 発表論文等

Nakai Hiromu: Unsung Hero of Anglo-Japanese Relations

京都大学大学院 人間・環境学研究科 『社会システム研究』

第 10 号、pp.25-37 (2007.2)